

# REPORT

平成29年度 おかやま文化芸術アソシエイツ調査研究事業  
「文化芸術交流実験室」報告書

平成29年度 文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業



公益社団法人 岡山県文化連盟

おかやま  
文化芸術アソシエイツ



# おかやま文化芸術アソシエイツ

岡山県文化連盟が持つ既存のネットワークを生かして、岡山県の各地域で生活する我々がその地域の文化を構成する資源(ヒト、コト、場所、お金等)についてよく知り、地域の未来を見据えた新たな価値の創造と多様なステークホルダーの共生について思考するために平成29年度から始動した地域アーツカウンシル機能です。プログラム・コーディネーターを迎え、以下のような取り組みを実施しています。

1  
東京2020オリンピック・  
パラリンピック競技大会に  
向けた文化プログラムの  
周知、参画の促進及び  
beyond2020プログラムの  
認証

2  
文化団体等の  
活動に対する  
助言、支援

3  
県内の文化芸術資源を  
発掘、再評価、  
活用するための  
調査事業の実施

4  
文化活動に係る  
研究会、勉強会、講演会  
などの実施

本書では、③ 調査事業の一環として実施した「文化芸術交流実験室」のレポートと、そこから得られた情報を中心に平成29年度の取り組みを報告します。

## 実施体制

主催 おかやま文化芸術アソシエイツ(公益社団法人岡山県文化連盟)・岡山県

平成 29年度文化庁 文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業

プログラム・コーディネーター 大月ヒロ子

事務局 石井茂、高田佳奈、濱野舞、神原隆兵、切石弘子(公益社団法人岡山県文化連盟)

運営協力 IDEA R LAB、一般社団法人ノマドプロダクション、木下志穂

協力 岡山県天神山文化プラザ、瀬戸内市民図書館、奈義町、公益財団法人大原美術館、公益財団法人真庭エスパス文化振興財団、公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団、公益財団法人福武教育文化振興財団、公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団、SUAC文化政策・経営フォーラム



## 大月ヒロ子

(有)アイデア代表取締役、国立歴史民俗博物館客員准教授  
一般財団法人地域創造 文化・芸術による地域政策に関する調査研究事業専門委員会委員

板橋区立美術館学芸員を経て独立。ミュージアムづくり、展覧会監修、空間デザインを行う(有)アイデアを設立し、数多くの公立ミュージアムの設立準備や運営に関わる。倉敷市の自宅を改修し、様々なプロジェクトを展開中。

# 文化芸術交流実験室

岡山県内の優れた文化・芸術資源の掘り起こしや、その価値を県民の皆様にも再認識していただけるよう、調査研究事業を行いました。調査の過程で得られる新たな情報や人材データをもとにして、文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みの提案や、ソーシャルインクルージョンの視点も盛り込んだレクチャーとワークショップを定期的で開催し、県内の人材や文化資源の領域横断的な出会いの場の創出とネットワーク構築を目指しています。

この実験室に期待するのは、文化芸術コミュニティ内での交流はもちろん、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流に文化芸術の創造性を生かして新しい取り組みが始まり、すべての人が文化芸術を楽しむことができる岡山が生まれることです。

## 第1回 見えない岡山を見る

日時 | 2017年11月25日(土) 11:00~16:00

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ3階会議室(岡山市北区天神町8-54)

講師 | 三宅航太郎(うかぶLLC共同代表)  
蛇谷りえ(うかぶLLC共同代表)

## 第2回 古道具類を生かす、回想法の魅力に迫る

日時 | 2017年12月16日(土) 11:00~16:00

開催地 | 瀬戸内市民図書館もみわ広場(瀬戸内市邑久町尾張465-1)

講師 | 市橋芳則(北名古屋市民歴史民俗資料館/昭和日常博物館 館長)  
村上岳(瀬戸内市民図書館 主幹)  
野田繭子(岡山県立博物館 学芸員)

## 第3回 文化と教育と福祉の刺激的な関係

日時 | 2018年1月8日(月・祝) 11:00~16:00

開催地 | 奈義町伝統文化等研修施設(勝田郡奈義町豊沢327-1)

講師 | 平田オリザ(劇作家・演出家)  
菅原直樹(奈義町アート・デザイン・ディレクター)

## 第4回 伝統芸能から見る未来

日時 | 2018年2月17日(土) 11:00~16:00

開催地 | 旧中国銀行倉敷本町出張所(岡山県倉敷市本町3-1)

講師 | 大澤寅雄(NPO法人アートNPOリンク 理事)  
小岩秀太郎(公益社団法人全日本郷土芸能協会 理事・事務局次長)  
高橋亜弓(仔鹿ネット)

## 第5回 食でつながる地域

日時 | 2018年3月24日(土) 11:00~16:00

開催地 | 旧遷喬尋常小学校(岡山県真庭市鍋屋17-1)

講師 | 姜侖秀(真庭市地域おこし協力隊、株式会社ふの 代表)  
関洋平(瀬戸内市立美術館 学芸員)  
岡本康治(まちづくり市民応援団 まにワッショイ 代表)



全5回の内容をまとめた広報用リーフレット  
(デザイン: 川路あずさ)



各回のゲストがテーマに応じた事例紹介などを行うレクチャー



対話から踊りまで、学びを身体化するワークショップ



昼食の時間もはさみ、じっくりと参加者同士が交流

## 文化芸術交流実験室01 見えない岡山を見る

日時:2017年11月25日(土) 11:00~16:00

開催地:岡山県天神山文化プラザ3階会議室(岡山市北区天神町8-54)

講師:三宅航太郎(うかぶLLC共同代表)

蛇谷りえ(うかぶLLC共同代表)

いつもの通勤路、なじみの建物、子どもと歩く散歩道…。よく知っていると思っている岡山ですが、本当でしょうか？ 見えない岡山を見る。逆説的な言い方ですが、まだまだ気づいていない、見えていない、そして聞こえていない、味わっていない、嗅いでいない、触っていない岡山に出会う。見過ごしがちな町の魅力に気づき、スポットをあてる名手と共に、町を捉えるスキルを上げてみましょう。

うかぶ LLC … 岡山生まれの三宅航太郎と、大阪生まれの蛇谷りえにより、2012年に設立されたうかぶ LLCは、鳥取県東伯郡湯梨浜町にて複合型の滞在スペース「たみ」を開業。2016年には鳥取市に「Y Pub&Hostel」を開業。その他、グラフィックデザインの制作やアート・メディアに関する企画やコーディネート、鳥取大学と連携した研究会の運営など、幅広い活動を継続している。



### レポート

講師のおふたりは、うかぶ LLC共同代表で、鳥取でゲストハウスたみの運営などを行っていますが、かつては今回の開催地・天神町のお隣りの出石町で期間限定のゲストハウスかじこを営むなど、岡山にも深い縁があります。

リラックスした雰囲気の中での活動紹介のレクチャー。2010年の瀬戸内国際芸術祭に合わせてオープンしたかじこは、3ヶ月という短い期間だけの人の流れの中で、場や仕組みをしかけたことにより様々な人の活動や風景が立ちあがるプロジェクトでした。

その後、かじこは全く別の条件、人の流れがほとんどない環境で、長期間じっくりと取り組むことで見えてくる風景にも興味が湧き、場所を探してたどり着いたのが鳥取・湯梨浜町だったそうです。2012年にたみを開業。2016年には2号店となるY(ワイ)を鳥取市内にも開業。うかぶ LLCでは、他にもグラフィックデザイン、地域のイベントやプロダクト制作、アートプロジェクトのマネジメントなどを手がけているそうです。

「観光地としての鳥取というマスメディアを介したイメージではなく、自分の視点で純粋に『見る』ことができる。自分の視点で自由に旅をしてほしい。」といった言葉から、アーティストでもあるおふたりが「見る」ということをとても大切にされている様子が伺えました。

昼からは、おふたりのファシリテーションによるワークショップ。「見る」を封じることで、その他の感覚を発見し、世界がどう見えてくるのかをじっくりと体験し、最後にその手応えを共有しました。



世代も職業も多様な方々が集まりました



目隠しで様々な感覚を得るワークショップ



そのまま会場の周辺を歩き、写真を撮影

## ヒト・コト・場所



### かじこ

2010年の瀬戸内国際芸術祭に合わせて、岡山市内に90日間だけオープンしたゲストハウス。築90年の木造家屋を改装。1泊2600円だが、宿泊者はトークなどのイベントをすると1000円引きで泊まることができるため、普段イベントをしないような人の話が聞けたり、地元の人が気軽に遊びに来られる状況が生まれる仕組みをつくった。並行して、アーティストが滞在しながら制作をするアーティスト・イン・レジデンスも行った。



### たみ

広く知られた観光資源が特になく、鳥取県中部に2012年オープン。ゲストハウスとカフェ、シェアハウスからなる。内部では写真の撮影を禁止して、自身の目で感じてもらうこと、インターネット上などでのイメージが出来上がらないようにすることを狙っている。安いということもあるが、そのような状況に興味を持って来てくれる人もいる。地域の人の出入りも増え、まわりでは若い人たちがお店を出したりし始めている動きもある。



### 天神山文化プラザ

岡山県民の芸術文化活動・文化情報発信の拠点として、展示室、ホール、練習室、会議室、文化情報センターを備えた文化施設。岡山県文化連盟が指定管理者として施設の運営・管理を行っている。1962年6月に、岡山県総合文化センターとして開館。建物の設計は、モダニズム建築の巨匠・前川國男によるもので、屋上庭園、ピロティ、吹き抜けレリーフなど、当時のモダンなデザイン手法が随所に見られる。

## ワークショップ

### 練習

- ・2人1組で小銭とお札を出し合い、ひとりがアイマスクをつけてお金の種類を当てる。重さを感じたり、形や模様を指でなぞったり。
- ・みんなで目隠しをして、耳を澄ませてみる。エアコンの音、窓の外の小鳥の鳴き声など、実はいろんな音に囲まれていたことに気づく。
- ・目隠しのまま自己紹介。他の人は、自己紹介をした人の方向を一斉に指差して、あっているかどうか目隠しを外して確認。

### ランチ

- ・表町のカフェEXCAFEさんのランチボックス。デザートは目隠しをして、匂いを嗅いで何か当てる。味覚や触覚を再認識する。
- ・目で見ないと味を感じにくいという人、目隠ししているから味覚に集中できるという人がいて、五感の使い方が違うことがわかる。

### 目隠し散歩

- ① ペアになって、ふたりで傘の柄はしを持つ。ひとりが目隠しをして、もうひとりが傘で誘導して会場周辺のまちなかを歩く。
- ② 15分経ったら立ち止まり、目隠しをしている方がその場で「見えている」ものを撮影し、役割を交代して更に15分歩き、写真を撮る。
- ③ 撮影した写真をInstagramの非公開アカウントに投稿して共有。

### 発表会

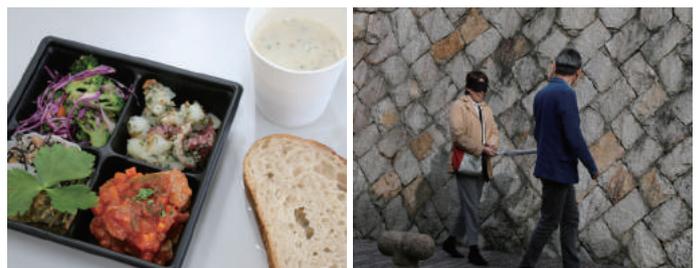
写真を見ながら、散歩中に感じた不安や驚きなどの感情を発表。  
「様々な音が、見えている時より大きく耳に飛び込んできた」  
「車の音や子どもの声を聞いて、どこなのか想像しながら歩いた」  
「風を身体で感じられた」  
「言葉ではなく、傘で相手の気持ちが伝わってきた」

### 参加者コメント

- ・たみのような場所のある土地に行ってみたくなった。(50代/女性/会社員)
- ・目以外の感覚を使う経験が新鮮だった。(50代/男性)
- ・参加者と同じ体験をして丁寧に共有することで印象が深まった。(40代/女性)
- ・知ってるはずのもの、見てるはずのものが実は危ういと実感した。(60代/女性)
- ・日常では知り合えない方と時間を共にして、「岡山にはこんな人がいるんだなあ」と元気がわいてきた。(30代/女性/文化団体職員)

### 講師コメント

見てはいけないという禁止事項をひとつ設けるだけで感覚が全く変わってくる。普段見えていないものを写真で撮って再生できるのも不思議だった。「見えているものが、一緒に行く人によって違ってくるのも面白い。より素敵な体験をしてもらうために、お互いに教えてあげる、触ってもらう、匂ってもらうなどの贈与関係もあった。



## 文化芸術交流実験室02

# 古道具類を生かす、 回想法の魅力に迫る

日時:2017年12月16日(土) 11:00~16:00

開催地:瀬戸内市民図書館もみわ広場(瀬戸内市邑久町尾張465-1)

講師:市橋芳則(北名古屋歴史民俗資料館/昭和日常博物館 館長)

村上岳(瀬戸内市民図書館 主幹)

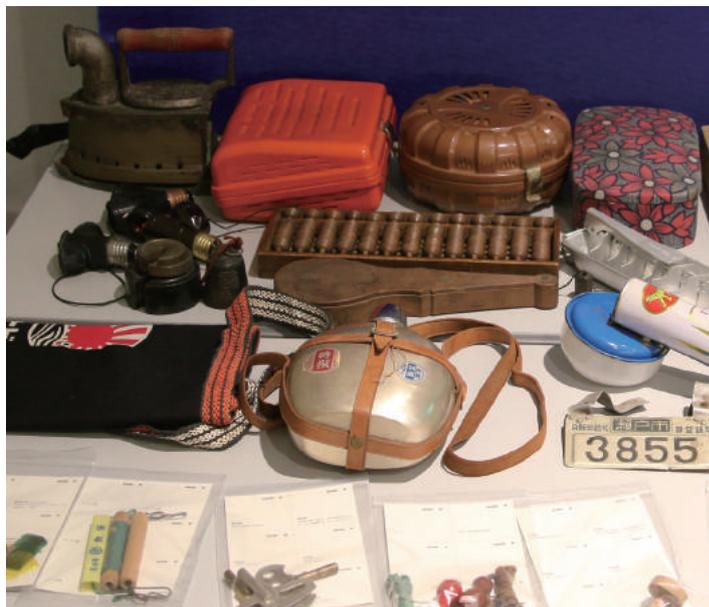
野田繭子(岡山県立博物館 学芸員)

地域の資料館や古民家、農家に活用する道を見つけられないまま眠る古い道具類は、いったいどのくらいの数に上るでしょう。そして、今後もその数は増え続けるに違いありません。これらを地域資源と捉え、様々な領域で魅力を放つものとして生かす方法があります。回想法もそのひとつ。古い道具類を認知機能の改善や、コミュニケーションの活性化に役立てる試みを知り、その活用領域をさらに広げてみましょう。

市橋芳則 … 昭和の日常的な暮らしを記録することに特化した「昭和日常博物館」をプランニング。ごありふれた暮らしのなかで使われたモノに博物館として価値を加え、他に類を見ないコレクションを築き、展示、回想法を活用して高齢者向けサービスに力を入れる。

村上岳 … 旧邑久町役場に入庁後『邑久町史』編さん事業を担当し、瀬戸内市に合併後は瀬戸内市立美術館学芸員、社会教育課文化振興係長などを経て、2016年4月から現職。図書館で地域資料の整備や文化財の活用に取り組む。図書館での回想法にも挑戦中。

野田繭子 … 岡山県生まれ。2013年度まで岡山市立小学校教諭。2014年度より現職。民俗資料および教育普及を主に担当している。2016年度は、年間約1,000人の小学生に対して、文化財を用いた授業を実施した。



## レポート

会場は、Library of the Year 2017 大賞に選ばれた瀬戸内市民図書館もみわ広場。地元のお年寄りも含む、様々な方が集まりました。

会場には昔懐かしい道具類が並べられ、何が始まるのだろう？という期待が高まる中、まずは講師の市橋さんより、北名古屋市における昭和の日常道具を活用した取り組みについて紹介がありました。

北名古屋歴史民俗資料館/昭和日常博物館は、昭和30年代の日常道具コレクションが充実していることで知られている資料館。小学校などの教育機関や福祉施設と連携し、子どもたちに暮らしの移り変わりを伝えたり、回想法という手法で地域のお年寄りに実体験を語ってもらったりするなど様々な取り組みを展開しています。回想法を実践する中で、地域の方々の間で世代間交流を通じてコミュニケーションが促され、お年寄りの認知機能が改善する効果も見られているそうです。

続いて野田さんより、岡山県立博物館の民俗資料を用いた教育普及活動が紹介されました。館内の一角に再現された昭和30年代~40年代の生活空間で、小学生を対象に、昔の暮らしを体感してもらう授業が行われています。子どもたちは、ダイヤル式の黒電話の掛け方に戸惑ったり、火のしと現在のアイロンの形の違いに驚いたりする中で、当時と今の生活スタイルの違いを学びます。

村上さんから、瀬戸内市民図書館における民俗資料の保存・展示活動などが紹介されました。移動図書館事業の一環として、高齢者福祉施設への巡回の際に、民俗資料を使って回想法を取り入れたワークショップを実施。古い道具を広げた瞬間、お年寄りは嬉々として歓声をあげ、若い図書館スタッフに道具のことを教えてあげるなど、とても生き生きとした様子になるとのことでした。

午後からは、市橋さんからグループでの回想法の進め方やより有効に「懐かしさ」を引き出す手法を理論的に学び、実際にグループに分かれて回想法を体験。他にもワークショップ形式の対話やゲームを通して、古道具の新しい楽しみ方を体感しました。



回想法の実践について勉強



古い道具を手にとると話が止まりません



ワークショップの様子

## ヒト・コト・場所



### 回想法

昔懐かしい生活用具などを用いて、かつて自分が経験したことをみんなで語り合うことにより、脳を活性化させ、心に良い作用を及ぼすことを目的とした心理・社会的アプローチ。アメリカの医師ロバート・バトラー（1963）によって提唱された。対人交流や情緒の活性化、高齢者のQOL（生活の質）向上などに効果があるといわれている。北名古屋市では、回想法を日本で初めて取り入れ、北名古屋市歴史民俗資料館を中心に「地域回想法」として介護予防、認知症予防や地域づくりの一環で実施している。



### 瀬戸内市民図書館(愛称:もみわ広場)

2016年6月に旧瀬戸内市立邑久郷土資料館跡地にオープンした公立図書館。「もちより・みつけ・わけあう広場」を基本理念とし、基本的な図書館機能に加えて、様々なワークショップや展示を行っている。館内には郷土資料展示が融合され、図書資料と関連づけることでより広い学習機会の提供を目指している。Library of the Year 2017（主催:NPO法人知的資源イニシアティブ）において、大賞・オーディエンス賞を受賞。



### 岡山県立博物館

原始・古代から近世に至るまでの文化遺産を収集・保存し、展観を行う歴史博物館として、1971年8月に開館。岡山県の歴史・文化の情報発信基地として、特別展、企画展、近県と共同開催する交流展などの事業を展開。昭和30年代～40年代の暮らしを再現した展示スペース等、児童生徒等を対象に館内授業を行ったり、学芸員が実物資料を持って学校に出向いて授業を行ったりしている。

## ワークショップ

### ランチ

瀬戸内市のカフェ キノシタショウテンのサンドイッチと珈琲・紅茶をいただきながら自己紹介。おやつに昔懐かしい駄菓子が配られ、子どもの頃の話題で盛り上がる。

### グループ回想法

① 4～6人のグループで語り合うテーマを決める(例:昔の遊び)。→② 1人がリーダーとなって質問しながら、ひとりひとりの思い出を引き出す。全員が語れるように配慮しながら時間管理・交通整理を行う。→③ 聞き手は語り手が心地よく、より思い出して語れるように傾聴する。→④ 途中、各グループに昔馴染みのある道具や写真などが配られ、参加者はそれらを手に取って思い出したエピソードを次々に語る。

① 8人程度のグループに分かれ、何かの素材の写真が貼られたカード(IDEA R LAB作成)を1人4枚とる。→② グループの1人が鬼となり、自分の手持ちカード1枚から連想したキーワードを他のメンバーに伝え、裏返してテーブルに出す。→③ 他のメンバーは、そのキーワードに近い写真のカードを手持ちから選んで裏返してテーブルに出す。→④ カードをシャッフルして、鬼が出したと思われるカードをみんなで一斉に指差し、正解を当てる。

### アプリ“Mitate”ゲーム

① 4人グループに分かれ、それぞれ好きな道具をひとつずつ選ぶ。→② 選んだ道具を色画用紙を背景に配置、iPadで撮影する。→③ アプリに取り込まれた写真4枚が表示されるので、鬼はいずれか1枚を選びその写真を表す言葉を見立て、他のメンバーに伝える。→④ 他のメンバーは見立ての言葉がどの写真を表すかを考え、該当すると思う写真を選ぶ。

### 参加者コメント

- ・年齢も職種も違う人と昼食も一緒になごめるのがよい。(50代/女性/介護職)
- ・古いものが持つ効果や影響について新しい知識を得ることができた。地域での取り組みのヒントになった。(40代/男性/地域おこし協力隊)
- ・回想法は自然に会話ができて、誰でも楽しめるのがいい。(30代/女性/地域おこし協力隊)
- ・年齢の上の方の幼少時代の話が聞けて楽しかった。(50代/女性/文化団体職員)
- ・日常生活に役立ててみたいと思った。(50代/女性/看護師)

### 講師コメント

今日感じた楽しかったという気持ちと経験を、他の人に伝えて、さらに回想法ワークショップを実践してくれると嬉しい。(市橋)

いろんな世代の方から、今までの人生で初めて聞いたようなお話が聞けた。民俗資料の新たな活用方法を知ることができた。(瀬戸内市民図書館)

モノは燃やせばあつという間になくなってしまう。平成のモノなど新しいものも残していく必要があると再認識した。(野田)



## 文化と教育と福祉の 刺激的な関係

日時：2018年1月8日(月・祝) 11:00～16:00

開催地：奈義町伝統文化等研修施設(勝田郡奈義町豊沢327-1)

講師：平田オリザ(劇作家・演出家)

菅原直樹(奈義町アート・デザイン・ディレクター)

世界的な劇作家・演出家である平田氏を「教育・文化のまちづくり監」に迎えた奈義町は、「ひとづくり」を大切に、教育・文化を柱とした「タウンプライド」を構築する方向性を打ち出しました。この町のアート・デザイン・ディレクターとしても活躍する菅原氏は、演劇と福祉の新しい関係性を探求しています。今回は、演劇を切り口に、奈義町に溢れるこれからのまちづくりを考えるうえでのヒントを読み解き、私たちの未来を垣間見てみましょう。

平田オリザ…劇作家・演出家。1962年東京生まれ。奈義町教育・文化のまちづくり監。劇団青年団主宰、こまばアゴラ劇場支配人。代表作に『東京ノート』『ソウル市民』三部作など。大阪大学COデザインセンター特任教授、東京藝術大学アートイノベーションセンター特任教授、四国学院大学客員教授・学長特別補佐を務める。

菅原直樹…奈義町アート・デザイン・ディレクター。1983年栃木県宇都宮生まれ。「老いと演劇」OiBokkeShi主宰。平田オリザ主宰の青年団に俳優として所属。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として勤務。2016年より岡山県奈義町に移住。介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇の新しいあり方を模索している。



### レポート

会場は、岡山駅からバスで2時間ほど北に走った鳥取県との境にある奈義町。建築家の磯崎新氏が設計した奈義町現代美術館があることでも知られています。今回は、千葉県や南九州など、県外からも文化事業や福祉、医療に携わる様々な方々が集まりました。

最初に、平田さんより、「文化によるまちづくり」と題して、奈義町での取り組みを紹介しながら、社会における芸術の役割についてレクチャー。奈義町では、2016年4月より「教育・文化のまちづくり監」となった平田さんを中心に、独自のまちづくりを展開しています。2017年度には「知識の量を量る試験から、学ぶ仲間を選ぶ試験へ」というコンセプトで、若手職員も参加する面接や演劇の手法を取り入れた職員採用試験を実施したことも話題を呼びました。

また、移住・出産・子育てに関わる様々な支援施策により、子育て世代の移住者が増加、合計特殊出生率は全国トップクラスになっています。平田さんによると、お母さんが子どもを見守りながら楽しめるカフェやレストラン、美術館などの文化施設の役割が大きいとのこと。「教育と文化に力を入れるかどうかで、まちの姿は10年後、20年後に大きく変化する」との言葉に会場の参加者は大きく頷きました。

午後からは、菅原さんによるワークショップ。東京で俳優として演劇活動を続けてきた菅原さんは、20代終わりに始めた介護の現場での仕事を通じて、介護と演劇の相性の良さを実感。東日本大震災後に岡山に移住した後、特別養護老人ホームでの介護職員勤務時に「老いと演劇」OiBokkeShiの活動を始めました。

ワークショップでは、まず、遊びとりハビリテーションを組み合わせた「遊びリテーション」やシアターゲームを通じて日常的に使う身体を意識した後、認知症の人に対して周囲がどう関わるかをロールプレイング。さらに、将来自分が認知症になった場合の老人ホームでのシーンを想定してグループでシナリオを作り、実際に演じてみました。老いや認知症にどのように向き合うか、深く考えるきっかけとなりました。



20代～50代の地域の担い手が多く参加



遊びリテーションで身体を意識



認知症の人をどう受け入れるか演じてみます

## ヒト・コト・場所



### 奈義町

岡山県東北部に位置し、鳥取県智頭町と接する山間の町。人口6100人、2546世帯(2017年4月現在)。市町村合併の波の中、2002年に住民投票で合併しないことを選択した。2015年には1000名の町民と中高生全員へのアンケート実施などを経て町民主体で創生総合戦略を策定、子育て支援や先進的な手法を取り入れる教育改革に加え、介護予防施設を新たにオープン。約6000人の人口を維持し、町民が幸せに暮らしていくための様々な施策に町民・役場職員らが一体となって取り組んでいる。



### OiBokkeShi

俳優で介護福祉士の菅原直樹を中心に、2014年に岡山県和気町にて設立。「老人介護の現場に演劇の知恵を、演劇の現場に老人介護の深みを」という理念のもと、介護現場・劇場などで創作上演、一般市民向けの演劇ワークショップ等を実施。演劇を通して「古い」「ボケ」「死」を不幸なことではなく明るい未来としてあぶり出し、それらを受け入れる文化を地域に醸成することを目指している。



### 奈義町現代美術館

通称Nagi MOCA(ナギモカ)。建築家の磯崎新氏が設計し、1994年4月に開館。館内は太陽、月、大地と名付けられた3つの展示室で構成され、それぞれの空間には荒川修作+マドリン・ギンズ、岡崎和郎、宮脇愛子の4人の芸術家が制作した作品が恒久展示されている。公共施設としては世界で初めて建築家と芸術家が共同制作した美術館。館内には図書館や町民ギャラリーも併設され、町民の文化交流の場となっている。

## ワークショップ

### ランチ

町外からの来訪者も多い人気の地元ピッツェリアLa gita(ラジータ)のピザとパスタ。

### 将軍ゲーム

① 全員が輪になり将軍役が中に立つ。→② 頭、鼻、肩、お腹、太もも、かかとに1~6の番号をつける。将軍が好きな番号を言い、全員が該当する自分の体の場所を触る。→③ 将軍は番号を言うスピードを速めたり複数の番号を言ったりしてみんなを混乱させる。→④ 自分以外の人の体を触るなどルールを変えていく。

### 椅子取り鬼

① 全員がバラバラの方向を向いて隙間が空きすぎないように椅子に座る。ひとつだけ椅子を空けておく。→② 鬼はおじいさんになった気持ちでゆっくり歩き、空いている椅子に座ろうとする。→③ 周りの人は、鬼を絶対に座らせないように協力して座る位置を変えていく(一回腰をあげたら、同じ椅子に座ってはいけない)。

### ボケを受け入れる練習

① 半円になって座り、真ん中の人認知症役になる。認知症役は渡された本の中から好きなセリフを選び、流れに関係なくセリフを言っていく。周りの人は「好きな食べ物」など自由におしゃべりする。→② 周りの人は「無視して話を進める」「セリフを受け入れて一緒に話す」など対応を変える。そのことで起こる気持ちや状況変化を観察する。

### ボケを受け入れる演劇

① 人生のアンケートを記入する。→② 介護現場でのシーンのシナリオに、アンケートの回答項目を当てはめる。→③ グループに分かれ、できたシナリオを発表しあい、誰のシナリオで演劇をするか決める。→④ 介護職員役/認知症の老人役/面会者A/面会者Bに配役し、シナリオを読み合わせ。→⑤ みんなの前で発表。

### 参加者コメント

- ・言葉を使わないコミュニケーションや、受け入れるという姿勢の違いでこんなにも関係性が変わるということを体験できてよかった。(20代/男性/医師)
- ・社会的にマイナスと見なされていることの中にも、接し方や考え方を变えることで、プラスになる可能性があることに気づいた。(40代/男性/農業)
- ・高齢化が進む地元でもとても参考になるワークショップ。ぜひ取り組みたい。(30代/女性/市役所職員)

### 講師コメント

どの自治体でも高齢者の医療費が課題。その分を教育や文化など未来への投資に回すなど、アートがトータルで地域活性化につながればと願っている。

(平田)

介護は、辛いことや悲しいことの連続だが、関わり方や考え方を变えることで、楽になれることもあると思う。超高齢化社会の中、誰も介護する場面が出てくると思うが、今日のワークショップのことを思い出してもらえれば嬉しい。

(菅原)



## 文化芸術交流実験室04 伝統芸能から見る未来

日時：2018年2月17日(土) 11:00～16:00

開催地：旧中国銀行倉敷本町出張所(岡山県倉敷市本町3-1)

講師：大澤寅雄(NPO法人アートNPOリンク 理事)

小岩秀太郎(公益社団法人全日本郷土芸能協会 理事・事務局次長)

高橋亜弓(仔鹿ネット)

伝統芸能の世界にも新風が吹いています。カフェで芸能体験をする若い人たちも現れ始めました。海外の写真家が、日本各地の芸能の装束の写真を撮影し、話題にもなりました。伝統のあり方を問い直し、日本の地域文化をどう受け継ぎ、発展させていくか、インプットとアウトプットの方法に新しい見方や方法を持ち込んでいる3人の講師と一緒に考えてみましょう。

大澤寅雄 … (株) ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室主任研究員、九州大学ソーシャルアートラボ・アドバイザー、NPO法人アート NPOリンク理事。共著『これからのアートマネジメント』『文化からの復興 市民と震災といわきアリオスと』など。

小岩秀太郎 … 1977年岩手県一関市生まれ。行山流舞川鹿子躍伝承者。全日本郷土芸能協会に入職し、芸能の魅力発信や復興支援、コーディネートに携わる。東京鹿踊ならびに縦糸横糸合同会社を組織し、風土とその暮らしの中で受け継がれてきた地域文化(芸能、祭り、技、食など)の継承と発展、関わり方の入口を国内外で企画提案する活動に取り組む。

高橋亜弓 … 仔鹿ネット企画・運営。UDS株式会社ホテルマネジメント事業部 BUNKA HOSTEL TOKYO 運営及びインバウンド向けガイドツアー等の企画作成。国際唼酒師。郷土芸能と日本酒を軸に、日本の地域文化を見聞き・感じ・味わい・学ぶ日々を送る。



### レポート

倉敷市美観地区の中心地にある旧中国銀行倉敷本町出張所を会場とした今回。備前市や高梁市の地域おこし協力隊員や行政職員、文化財団職員など、地域で文化事業に携わる方が中心に集まりました。

午前中は、郷土芸能(民族芸能)にまつわる課題意識が共有され、白熱した議論が交わされました。まず、存続の難しさについて、小岩さんから「少子高齢化や過疎による担い手不足が要因として挙げられるが、実際には仕事や介護などで練習や本番参加の都合がつけられず、行事をやめざるを得ない。また、下の世代に行事の意義や想いが伝わっていないのではないか。」という地域の実情をふまえた指摘がありました。

続いて大澤さんから、2017年6月に行われた文化芸術基本法の改正や、文化芸術推進基本計画の策定に向けた中間報告について共有があり、文化財を観光や福祉・教育分野などに戦略的に活用する方向性が提示されていることが紹介されました。その中で、「COOL JAPAN」や「OMOTENASHI」も話題になりました。日頃から外国人観光客と多く接し、文化交流イベントも企画している高橋さんから率直な指摘がありました。「海外の人の反応は、『“COOL JAPAN”は自然と滲み出るものであって自分から言うものではない』と冷ややか。今東京で人気があるのは、庶民の日常の暮らしや食べ物、地域のお祭りなどのローカルなコトで、日本人が海外の人に受けると思って行っていることはずれている可能性がある。また、今後増えることが予想される海外との文化交流事業に際して小岩さんは1970年の万国博覧会を例に出し、「パフォーマンスとして紹介されては本質が伝わらない。郷土芸能の担い手自身が自分たちで何をどう海外の人に伝えたいのかを考え、それが実現できるよう交渉する必要がある。」との課題意識を提示しました。

午後からはワークショップを2本。まず、小岩さんによる、岩手県の郷土芸能である鹿踊り(シシオドリ)に関するレクチャーと、踊りの体験。鹿踊りは、元々は山の神様に十分な食糧が得られるよう祈りを捧げるためのもので、シシは食肉を指し、関東や東北地方では熊や鹿やカモシカのこともシシと称されるそうです。見よう見まねで体験した踊りはとても難しく、その土地固有の身体性や精神のあり方に気づかされました。

続いて高橋さんの「言葉で体験を表現する」ワークショップ。例えば海外の方にお祭りを説明する時、高橋さんはできるだけ限定的な言葉や説明は避け、これまでの体験や習慣と比較できるよう具体的に問いかけ、自分ごととして経験することを促しているそうです。知識や情報をこちらから説明するだけではなく、それぞれの言葉で体験を表現し、感覚的に理解してもらうことが、深い満足につながるのだと気づきました。



地域で文化芸術に携わる方々が集まりました



鹿踊りの頭に興味津々



みんなで「四つ拍子おどり」に挑戦

## ヒト・コト・場所



### 旧中国銀行倉敷本町出張所

1922(大正11)年に竣工したルネサンス風の建物。大原美術館や有隣荘などを手がけた総社市出身の建築家、薬師寺主計が設計した。2階建ての煉瓦造り(屋根は木造)で、外壁は御影石洗い出しで仕上げられ、腰壁は御影石貼りになっている。壁と天井には瀟洒な漆喰レリーフが飾られ、窓にはステンドグラスがあしらわれるなど、細部まで趣向を凝らした様子が見て取れる。1998年に登録有形文化財に指定された。



### 備中神楽(びっちゅうかぐら)

岡山県備中地方(高梁市等)を中心に行われている郷土芸能。毎年氏神の例大祭に奉納される「宮神楽」と、7年毎の産土荒神の式年祭で奉納される「荒神神楽(式年神楽)」がある。「宮神楽」は江戸中期に国学者の西林国橋が神話を題材に編成したもので、「天野岩戸開き」「国譲り」「大蛇退治」など芸能色が強く、仮面を多用した神楽。対して「荒神神楽」は、元来集落単位で祀っている荒神(産土神)を招魂や鎮魂し、五穀豊穡を祈るために行われていたもので、より神事色が濃く素面で舞う。産土神の信仰がこれほど濃厚に伝わる地域は全国でも稀とされる。1979年、備中神楽は国の重要無形民俗文化財に指定された。[Photo: 山田航]



### 西大寺会陽(さいだいじえよう)

日本三大奇祭の一つ。奈良時代、新年の修正会(大祈祷)の日に、守護札を所望し殺到する参詣者の頭上に投与したところ参詣者が身体を求めて裸になって奪い合ったことが始まりとされる。現在は毎年2月第3土曜日に開催されている。神事は19日前から始まり、会陽事始式、当日投げ込まれる宝木の材料を受け取る「宝木取り」、その翌日の「宝木削り」を経て、14日間の祈祷が行われる。祈祷結願の日の夜、まわし姿の裸の男衆が集まり、水垢離と参詣の後、本堂に向かう。約9000人の裸衆が一斉に宝木の争奪戦を繰り広げる様子は圧巻。ここ数年、外国人観光客の参加も増えている。

## ワークショップ

### ランチ

国指定重要文化財「大橋家住宅」に昨年オープンしたカフェ「倉敷中島屋」のおにぎり弁当。食材はすべて県産で、お米は自然栽培されたもの。倉敷で老舗の和菓子・藤戸饅頭をデザートにいただきながら、活発に情報交換を行う。

### 踊る-踊らされる~岩手県・シシオドリ体験

① シシ頭や衣装に触れた後、鹿踊りについてのレクチャーや、他地方の鹿踊りとの違いを映像で比較。→ ② 輪になって小岩さんの真似をしながら踊ってみる。→ ③ 太鼓の音やリズムを言葉で表現し、口に出しながら覚える(タンタンタコモコ)→ ④ 太鼓に合わせて踊りがどんどん速くなっていく(トランス状態を体験)。→ ⑤ 最後に、岡山・高梁に伝わる「四つ拍子おどり」をみんなで踊ってみる。

### 言葉で体験を表現する

① 日本各地の芸能がもつ多面性を「暮らし」をテーマに映像で紹介。→ ② 岡山・備中神楽の映像を見て岡山の「暮らし」に触れる。→ ③ 3つのグループに分かれ、それぞれ「食」「生業・産業」「家族」の3つのキーワードを振り分ける。→ ④ それぞれのキーワードで、自分の故郷でのお祭りや風習にまつわる体験を語り合い、共通点や相違点を探る。



### 参加者コメント

- ・芸能と生活とのつながりを考えることができてよかった。(30代/女性)
- ・みんなが楽しく伝統行事に参加できる仕組みを作ることが、小さい村・町では今一番の課題だと思う。(30代/女性/地域おこし協力隊)
- ・「振りつけ」を身体の動きやリズムで覚えるプロセスを体感できた。(30代/女性)
- ・自分が今住む地域の芸能が自分ごととして身近なものに感じた。
- ・芸能を残すにあたり、男性は表、女性は裏方に徹するなど昔のやり方にとらわれず、今のやり方を模索する必要があると思った。

### 講師コメント

地域の芸能は、土地の風土に根差した文化の結晶だ。岡山ではその結晶の輝き方が、風土の多様性ゆえに実に個性的だ。芸能だけでなく、その土地の歴史、自然、生活や生業を大事にしつつ外部に発信すれば、岡山はさらに美しい輝きを放つだろう。(大澤)

「伝統」は古くさいものではなく、未来をつくっていくもの。郷土芸能は伝統的な側面もあり、その地域に住む人たちのライフスタイルやセンスによって変化して、次の世代に憧れられながら育てていく地域の宝になってもいいと思う。(小岩)

芸能の根本。人々の暮らしの中で生まれ、家族や地域をつないできたもの。生業の成功を祈願し、収穫を喜んだもの。芸能を通して各土地の「暮らし」について触れられたことはとても有意義でした。私は外国の人々に向けた芸能ツアーを行っていますが、こうして「根本」の部分共有することで、芸能そのものが言葉や文化の壁を越えて共通言語となり得るのではないかな、と感じています。(高橋)

## 文化芸術交流実験室05 食でつながる地域

日時:2018年3月24日(土)11:00~16:00

開催地:旧遷喬尋常小学校(岡山県真庭市鍋屋17-1)

講師:姜侖秀(真庭市地域おこし協力隊、株式会社ふの 代表)

関洋平(瀬戸内市立美術館 学芸員)

岡本康治(まちづくり市民応援団 まにワッショイ 代表)

光溢れる岡山には、豊かな食材が揃っています。農地での生産に加え、海や山でも、多様な食材を育み私たちに届けてくれる人々がいます。食は多様な分野から成り立つ文化そのものであり、生産の現場でも提供の場でも有効なコミュニケーションツールとなります。食を切り口にして、地域の様々な文化を見つめましょう。

姜侖秀…韓国ソウル出身。St.Mary's University(ロンドン),Physical Theatre修士過程を卒業後、6カ国9人のアーティスト団体「CakeTree Theatre」を立ち上げ、芸術監督として韓・英で活動。2012年韓国密陽国際演劇祭 若手演出家展 演出賞・作品賞受賞、2015年から真庭市北房地域のお母さんたちと北房キムチを作っている。

関洋平…1980年生まれ。倉敷市連島出身。愛媛大学法文学部総合政策学科夜間主コース卒業。2002年、株式会社源吉兆庵。2014年、有限会社三蔵農林。2015年、瀬戸内市立美術館。北大路魯山人の芸術、近現代の備前焼が専門。卒業論文のテーマだった「地域のコアとしてのミュージアムの役割」としての地域活性化を实践すべく活動。

岡本康治…1969年真庭市生まれ。少年時代を古いものに囲まれ真庭で過ごす。高校・大学・就職先と新しい建物が汚れていく姿を見て、磨けば光る古いものの良さを改めて感じる。現在は文化財となっている母校の旧遷喬尋常小学校での「なつかしの学校給食」を中心に、多様な仲間と共にまちを楽しんでいる。割烹旅館おかもと代表。



### レポート

この日の会場は、真庭市久世にある旧遷喬尋常小学校。なつかしの学校給食体験や学生服の貸し出しを行っており、ゲストも制服姿で登場しました。

まずはまにワッショイの岡本さんから、その給食体験が始まった経緯や「宴の文化」について。採算が合わずに業者が手を引いてしまった活動ですが、調理にはかつて給食の仕事をしていた女性たち、準備・片付けには同世代の男性を中心に有志で協力をあおいで運営するスタイルとしてリニューアル。参加者は7年目で年間1万人を超え、運営メンバーは合わせて70名にものぼるそうです。ただし、毎回メンバー全てが関わるわけではなく、それぞれのペースを優先。まちづくりの活動だと義務的に抱え込まずに、楽しみながら続けていることで、結果がついてきている。子供もその雰囲気についてくれるはずだと、大事にしていることを語っていただきました。

続いて、真庭市地域おこし協力隊で、株式会社ふの 代表の姜侖秀さん。北房地域の野菜などを生かした地域産品を検討するにあたって、自分の出生地である韓国ゆかりのキムチを思いつきました。広州女子大学の講師、自身の母親などに学ぶ勉強会や、蒜山大根を使ったキムチや、本格的なキムチの素など、商品開発に取り組んできたそうです。韓国では、地域で集まってキムチづくりのコツやそれぞれの家庭の味を分かち合う文化があるそうです。開催した勉強会では、普段は交流が少ない真庭の他の旧町村地域からも参加があるなど、食を通して地域の人々が交流することの価値、商品化だけではなく、多様な活動が生まれる可能性に気づいたそうです。

美術館の学芸員でありながら、食の商品企画の仕事などに携わっていた経験をもつ関洋平さんからは、企画やマーケティングについて。凡人でも100個アイデアを出せば数個はいいものが見つかる。アイデアを選び(分類、セグメント)、磨く(集中、ターゲット)プロセスが大事であること。時間には限りがあるからリミットを決めること。その他にも企画をしていくうえで様々な手がかりになるヒントやプレゼンテーションの技術などを話していただきました。

ランチはもちろん、まにワッショイによる給食を体験。午後は2グループに分かれて久世の商店街に繰り出し、食材を探してきて、それを生かした商品企画を考えるワークショップを行いました。



会場で体験できる制服と割烹着姿で登場したゲスト



まにワッショイによる給食体験



久世の商店街で食材を探す

## ヒト・コト・場所



### 旧遷喬(せんきょう)尋常小学校

1874(明治7)年、現在の真庭市久世(久世村)に建てられた小学校の木造校舎。設計は県内で多くの公共建築を手がけていて、宮大工の資格を持つ江川三郎八によるもので、建築材には同市木山にある国有林の優れた木材が使用されている。左右対称の外観、壁面の飾り窓、切妻屋根、講堂の格天井などが特徴。1990年まで小学校として活用、1997年には図書館・音楽ホール機能を有する建物が併設され、「久世エスパスランド」として運営。一般開放されているほか、映画やテレビのロケでも多く活用されている。1999年に国指定重要文化財となる。

<http://kuse-ospace.jp/pages/school>



### 「まにワッショイ」の給食体験

「木造校舎で学生服を着て給食を食べる。」そんなタイムスリップを体験出来る貴重な場所が遷喬小学校にある。支えているのは、真庭市で地域と人を元気にする活動を行っている市民団体まにワッショイ。給食は、実際に調理員だった方々によって作られている。配膳ボーイズの素晴らしいナビゲートで、知らず知らずのうちに演劇的な場が生まれるのも面白いところ。人の関わり方によって、今まで見たこともなかった場が生まれることがある。

<http://www.facebook.com/maniwasshoi/>



### 北房キムチ

地域で40年加工食品を作ってきた北房生活交流グループと韓国出身の地域おこし協力隊である姜侖秀が、韓国に30人しかいないキムチ名人から伝授してもらったレシピを元に研究・発展させたキムチ。本場韓国産の唐辛子、2年間熟成させた魚醤、北房地域の特産品である高級梨で、売ることができなかった規格外のもの、伊吹島のいりこ、高冷地の大根や地元の農家から直接仕入れたニンニク、玉ねぎなどが使用されている。姜が設立した株式会社ふのが取り扱い、好きな野菜で自然発酵の味を楽しむことのできるキムチの素としても発売されている。

<http://www.hokubo-kimchi.com/>

## ワークショップ

### ランチ

「まにワッショイ」の給食体験。配膳ボーイズの配膳により、若鶏のオーロラソース、フレンチサラダ、コーンスープ、コッペパン、ミルメーク、牛乳の献立を各自で受け取り、日直係の「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶も。食事中は懐かしさで会話が弾む。

### 食の商品企画

① 2グループに分かれて、久世の商店街で食材を探して購入してくる(塩麴豆腐、生湯葉、粕酢、紅麴酢) → ② 購入した食材を全て味見して、取り上げたい1点に絞る(豆腐の麴漬) → ③ 地域産品としてどのようにすれば手に取ってもらえるか、2グループそれぞれで商品企画をする → ④ それぞれの企画を発表し、関学芸員から講評をもらう。



### 参加者コメント

- ・小学校で給食を食べるという体験も面白かったし、真庭の地域のことにも興味があった。(40代/女性)
- ・食べることが好きなので参加したが、企画を考えるという視点の体験も楽しかった。(30代/女性)
- ・マーケティングに関する本格的なレクチャーを聞き、フィールドワークをした上で企画を考えるという流れが実践的で身になりました。(30代/男性)

### 講師コメント

関さんの専門家目線の話から学ぶことも大きく、同じ地域で活動している岡本さんと参加者の皆さんに出会えたのも楽しいことでした。一緒にひとつの食材を囲んでアイデアを出し、ひとつの目に見える結果まで作ることができてとても良かったです。(姜)

食という切り口でまちを歩き企画をつくり上げることを通して、参加者の地域の文化へ向ける眼差しや視野が鋭く広くなった手応えがありました。また、地域文化の担い手・つなぎ手の存在を守り育て応援することの意義を改めて感じました。(関)

皆さんが久世に来てくださり久世を知ってもらえたこと、熱心にお話を聞いていただけたことがうれしかったです。ワークショップ当日に限らず思わぬ出会いや人のつながりが重なって、改めて真庭はつながる地域だと感じました。真庭の宴の文化の賜物かもしれません。(岡本)

## 岡山県内の文化・芸術な「ヒト・コト・場所」を紹介

視察・ヒアリング対象となったヒト・コト・場所の一部をウェブサイトで紹介しました。

※ 実験室で紹介したものはレポートページにて紹介しています。



### カカラウルワークス

糸紡ぎに関わる事業を行う倉敷社屋の中は、様々な種の羊から採れた原毛や、カラフルな糸、織り機、紡ぎ車などで溢れかえっています。ここにある毛糸は、普段私たちがよく目にする糸と違い、思い切り自由に縋り合わされたものもあり、楽しいことこの上ありません。手仕事が家庭の中から姿を消して久しくなりましたが、年齢や経験を問わず楽しめる紡ぎは、そこに集う人同士のコミュニケーションを育むよい機会ともなります。手は突き出た脳です。もっと動かしてあげたいものです。



### 1970年代のデザインを探して(井原)

廃業した商店の1階部分が、内装そのままにガレージとして使われていることがよくあります。目を凝らして見ると天井や壁に残った壁紙のデザインが70年代の代表的な柄であったりして、そこから、かつての町の賑わいや人々の好みを推測していくのも楽しいものです。これは井原の下町商店街で見かけた天井部分。照明器具も当時のままです。近年、この頃のものが、どんどん壊されています。70年代デザインに焦点を当てたツアーも急がねばならない気がします。



### 郷原漆器を支える「蒜山高原の自然」

蒜山高原にある漆畠。郷原漆器に欠かせない備中漆は、下草が刈られたこの美しい林で採取されています。漆の幹の表面を傷つけ、その傷口からじんわりと滲んでくる乳白色の樹液をすこずつ掻き集める作業を漆掻きと言います。漆は乾くと黒く変色するため、その傷跡が不思議な暗号のようにも見えます。郷原漆器は山栗を輪切りにした生木を挽いて作ります。身近にふんだんにある素材を組み合わせる活かす工芸品は、岡山の豊かな自然が支えています。 <https://www.facebook.com/goubara.shikki/>



### 岡山県立美術館の「画材キット」

日本画の材料。私たちは幼い頃から様々な画材に接してきました。色鉛筆にクレヨン、水彩絵の具、マジック、墨。でも、日本画の材料をじっくりと手に取ったことのある人は意外に少ないのではないのでしょうか。生活の中でよく見る掛け軸や屏風ですが、その材料は洗練されていて実に魅力的です。この画材キットは、美術館学芸員、日本画家、プロダクトデザイナーそれぞれの専門性を生かした、優れた教育ツールです。

<https://lib.city.setouchi.lg.jp/>



### 山陽放送会館

1962年竣工の建物は佐藤武夫氏の設計。外壁に使われているコンクリートブロックのグリッドが印象的です。向かいの岡山市民会館も同じブロックで構成されています。最近の工事では、このようなパーツは工場生産のコンクリートパネルやブロックを使うのですが、ここでは現場で一個ずつ手づくりされています。岡山映像ライブラリーセンターには、そんな丁寧に型取り作業をする工事の貴重な記録映像が残っています。



### 岡山市民会館

1964年に竣工して以来、岡山の文化活動の中心を担ってきた多目的ホールは建築家の佐藤武夫氏によって設計されました。お向かいの山陽放送会館も同氏の設計です。市民会館の紹介には、カラフルなガラス窓を含めたロビー部分の写真がよく使われますが、他にも見所はたくさんあります。ふたつの建物に共通しているのは、手すりのデザインの秀逸さでしょう。オリジナルにつくられた独創的な手すりが人の動きをサポートし、見事なリズムを奏でています。



### 麦稈真田(ばっかんさなだ)

麦の茎が漂白され、平たく潰され、それが人の手によって編み上げられると、長いテープになります。そのテープを帽子専用のミシンでクルクルと縫いあげてつくられたのが、麦わら帽子です。岡山県南西地域は日本の麦稈真田の主要な生産地のひとつでした。町内には、すばらしいスピードで麦わらを編むおばあちゃんがひとりやふたりはいたものでした。編みあがったテープは回収する業者のおじさんが個々の家を訪問して集めたものです。

## 岡山県内の気になる「ヒト・コト・場所」をアンケート

文化芸術交流実験室の参加者から寄せられた、岡山県内で気になっているヒト・コト・場所をリスト化しました。

※ 実験室で紹介したもの、抽象的なもの、詳細不明なものは省略しています。

足合氣道の都築誠二さん	心身統一合氣道会 岡山県支部 支部長、心身統一合氣道六段 師範
Art group. mo	岡山県北でアートに触れる機会を増やす活動などを行うグループ
アニメーション作家の中村智道さん	赤磐市を拠点に活動。バンクーバー国際映画祭、湯原温泉AIRなど国内外で発表
あわくら温泉元湯	英田郡西粟倉村の公営温泉を再生したゲストハウス・カフェ・温泉
石山公園	岡山市街・後楽園や岡山城脇を流れる旭川のほとりにある公園
出石町・天神町境界の歴史と今後	戦災を逃れた建物、文化施設などが点在する岡山市街・後楽園の玄関口エリア
IDEA R LAB	2013年、倉敷市玉島にオープンした日本初のクリエイティブリユースの拠点
犬養木堂記念館	岡山市北区にある、犬養毅第29代内閣総理大臣の記念館
有漢	岡山県中央部(上房郡)に位置した町。現在は合併により高梁市となっている
映画監督の本田孝義さん	『モバイルハウスのつくりかた』などの作品を製作してきた岡山出身の映画監督
岡山NPOセンターの石原達也さん	岡山市を拠点にNPOや市民活動の支援、ネットワーク活動などを行う
岡山禁酒会館の真木信雄さん	大正時代に建てられ、現在も様々なイベント等に活用されている岡山市街にある木造洋館
岡山城	豊臣秀吉の指導を受けて宇喜多秀家が築城し、1597(慶長2)年に完成した城
オセラの青山融さん	情報誌「Osera」編集顧問。岡山弁を通じた地域振興活動なども行う
表町商店街	岡山市街の中心的繁華街
旧牛窓診療所	旧牛窓町(瀬戸内市)牛窓地区にあり、市が活用方法を検討中の建物
倉敷美観地区	倉敷市街にある町並保存地区・観光地区。大原美術館や倉敷アイビースクエア等がある
芸術人類学者の中島智さん	岡山出身でメディア論、現代芸術論、視覚文化論などを研究。武蔵野美術大学非常勤講師
後楽園	岡山市街にある日本三名園。江戸時代初期に岡山藩主・池田綱政によって造営された
郷原漆器の高月国光さん	真庭市蒜山地域の郷原集落で復興活動が進められている漆工芸の担い手
コーヒーと人	総社市(吉備路)にある元民宿を改装したカフェ
古代吉備の歴史、古墳	弥生時代末期～古墳時代に繁栄、現在の総社市と周辺エリアが中心だったといわれている
NPO法人山村エンタープライズ	美作市を拠点に、若者が可能性を発揮できる社会の実現を目指して活動している
シネマニワ	映画館のない真庭市で映画の上映活動などを行う団体
写真家の杉浦慶化	商業写真で経験を積み、現代美術の領域で活動している岡山出身の写真家
写真家の伊藤和則さん	国内外の演劇やダンスなど舞台写真を撮影する岡山出身・在住の写真家
瀬戸内国際芸術祭	2010年より3年に1度、香川や岡山県の島々を会場に開催される現代アートの祭典
NPO法人だっぴ	魅力的な大人と地域の未来を担う若者が交流する機会や場づくりを行うNPO
玉島の備中綿	江戸時代に盛んに交易され、近年では街おこしにも活用されている倉敷市玉島の名産物
ダンサーの平井優子さん	岡山出身・在住で国内外で活躍するダンサー・振付家
哲学カフェの松川絵里さん	街中での哲学対話の実践やサポートを行う「カフェフィロ」副代表
domaine tetta	2016年、新見市哲多町にできた自らぶどう畑を所有するワイナリー
西粟倉森の学校の井上達哉さん	英田郡西粟倉村で国産木材の活用を手掛ける株式会社西粟倉・森の学校代表
備前暮らしカレッジ	人と食とのつながりをテーマに、備前の歴史・文化など地域資源を学ぶ社会実験的な学校
蒜山耕藝	2011年より真庭市で自然栽培を営む農業生産法人。食卓「くど」もOPEN
ファジアーノ岡山	岡山市、倉敷市、津山市を中心に岡山全县をホームタウンとするプロサッカークラブ
吹上美術館の片山康之さん	倉敷市下津井港で地域の人々とアーティストが運営する美術館。港沖の松島へ移転予定
編集者のアサイアサミさん	広告会社ココホレジャパン所属の編集・ノンフィクション執筆者
美咲町大畑和	久米郡美咲町の山間地ですり鉢状に850枚の棚田が広がる地域
NPO法人みんなの集落研究所の藤井裕也さん	中山間地域をはじめとした県内の地域・集落の維持と発展を目指して調査研究等を行う
森のようちえん	自然の中で遊ばせながら子どもの力を育む幼児教育活動

# シンポジウム・研究会・文化プログラム認証受付等

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの周知と参画の促進及び beyond2020プログラムの認証受付、文化団体等の活動に対する助言や支援、文化活動に係る研究会・勉強会・講演会等を実施しました。

## おかやま文化芸術アソシエイツ・おかやま文化プログラム／キックオフ・シンポジウム～地域で文化を考える～

日時 | 2017年6月27日(火) 15:00～17:30

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ

[話題提供]

講師 | 杉浦幹男(アーツカウンシル新潟プログラムディレクター)

[シンポジウム]

モデレーター | 朝倉由希(文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ研究官)

パネリスト | 大月ヒロ子(有限会社アイデア代表取締役、国立歴史民俗博物館客員准教授)

岡野英美(NPO法人ENNOVA OKAYAMA理事長)

藤井裕也(NPO法人山村エンタープライズ代表、総務省地域おこし協力隊 サポートデスク上級相談員)



## 『NPO活動』官民合同資金調達説明会&相談会

[備前地域]

日時 | 2017年10月25日(水) 13:30～17:00

開催地 | 岡山県立図書館 多目的ホール

[備中地域]

日時 | 2017年11月8日(水) 13:30～17:00

開催地 | 井原市市民活動センター つどえ～る

[美作地域]

日時 | 2017年11月28日(火) 13:30～17:00

開催地 | 津山市コミュニティセンター あいあい

## SUAC文化政策・経営フォーラム研究会「地域版アーツカウンシルの課題」

日時 | 2017年5月28日(日) 14:30～17:10

開催地 | 倉敷市芸文館 201 会議室

共催 | SUAC文化政策・経営フォーラム

[基調講演]

講師 | 中川幾郎(帝塚山大学 名誉教授)

[話題提供]

講師 | 石田尚昭(公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団 常務理事)

[ディスカッション]

コーディネーター | 朝倉由希(文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ研究官)

パネリスト | 中川幾郎、石井尚昭、石井茂(公益社団法人岡山県文化連盟 専務理事)

## 県内文化芸術関係公益法人情報交換会 アートマネジメント研修「文化芸術と地域発展ーアートマネジメントの新たな課題ー」

日時 | 2017年10月20日(金) 14:00～17:00

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ 第2会議室

共催 | 公益財団法人福武教育文化振興財団

講師 | 朝倉由希(文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ研究官)

ハナムラチカヒロ氏『「まなざしのデザイン」出版記念全国キャラバン講演会』

日時 | 2017年11月23日(木・祝) 18:30~20:30

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ 第1会議室

講師 | ハナムラチカヒロ(ランドスケープアーティスト、研究者、俳優、一般社団法人プリコラージュファウンデーション代表理事)

地域アーツカウンシルネットワークミーティング(第3回)

日時 | 2018年2月15日(木) 13:30~18:00、16日(金) 9:00~12:00

開催地 | 倉敷公民館 第2会議室

共催 | アーツカウンシル新潟

※平成29年度戦略的芸術文化創造推進事業「地域文化の発掘・発信及び社会的課題解決に向けた文化プログラムのモデル企画・フォーラム開催等事業」

[レクチャー]

講師 | 菅原直樹(奈義町アート・デザイン・ディレクター)、大月ヒロ子、柳沢秀行(公益財団法人大原美術館 学芸課長)

文化プログラム(beyond2020)の認証受付

beyond2020プログラム 認証状況

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全体(※1)	157	-	-	-
うちアソシエイツ受付分(2017.8.31~)	78	-	-	-
うち県文祭事業	79	-	-	-
うちその他文化連盟申請事業	28	-	-	-

※1 2018.3.23内閣官房まとめ+アソシエイツ受付未反映分

東京2020参画プログラム(応援文化オリンピアド) 認証状況

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全体(※2)	69	-	-	-
うち県事業	2	-	-	-
うち県文祭事業	51	-	-	-
うちその他文化連盟申請事業	16	-	-	-

※2 2018.3.31「Culture NIPPON」HP掲載情報+文化連盟申請実績から

監修	.....	大月ヒロ子
編集	.....	高田佳奈、橋本誠
デザイン	.....	安藤次朗 [LOVE AND PEACE]
制作コーディネート	.....	一般社団法人ノマドプロダクション
発行	.....	公益社団法人岡山県文化連盟 〒700-0814 岡山市北区天神町8-54 岡山県天神山文化プラザ内
TEL	.....	086-234-2626
FAX	.....	086-234-8300
URL	.....	http://o-bunren.jp/